

# 講演要旨集正誤表

講演要旨集の内容を以下の如く訂正させていただきます

		誤		正
8頁	シンポジウム	南 利之	→	南 利幸
8頁	普及講演	13:00~15:00 齋藤 毅	→ →	13:00~15:30 齋藤 毅
40頁	口演終了後の臨時評議委員会で抄録内容の一部が不適切な表現と判断されましたので、演者の承諾を得た上で削除しました。			
68頁	考察1行目	Durha、型	→	Durham型
69頁	方法最終行	4月25日	→	4月16日
69~70頁	結果および考察を下記の内容に差し替えます			

## 3.結果

愛媛県における松山市と宇和島市で観測された花粉数と粒子数の相関関係は以下のとおりである。

### ①松山市

観測期間中の2月1日から5月10日までの花粉数と粒子数の間には、よい相関関係が認められた。

$$r = 0.736 (p < 0.001), n = 99$$

2月の花粉数と粒子数の間には、よい相関関係が認められた。

$$r = 0.897 (p < 0.001), n = 28$$

3月の花粉数と粒子数の間には、よい相関関係が認められた。

$$r = 0.898 (p < 0.001), n = 31$$

4月の花粉数と粒子数の間には、よい相関関係が認められた。

$$r = 0.844 (p < 0.001), n = 30$$

5月の花粉数と粒子数の間には、よい相関関係が認められた。

$$r = 0.819 (p = 0.0037), n = 10$$

### ②宇和島市

観測期間中の2月1日から4月16日までの花粉数と粒子数の間には、よい相関関係が認められた。

$$r = 0.733 (p < 0.001), n = 75$$

2月の花粉数と粒子数の間には、よい相関関係が認められた。

$$r = 0.853 (p < 0.001), n = 28$$

3月の花粉数と粒子数の間には、よい相関関係が認められた。

$$r = 0.843 (p < 0.001), n = 31$$

4月の花粉数と粒子数の間には、よい相関関係が認められた。

$$r = 0.806 (p = 0.00016), n = 16$$

## 4.考察

愛媛県松山市と宇和島市で観測された花粉数と粒子数の間には、よい関係が認められ、計測器の有用性が示唆された。特に松山市の2月から3月までのスギ花粉飛散時期については、2月と3月における各花粉数と粒子数の間には、極めて高い相関関係が認められ十分に実用可能と思われる。

これらは1年間だけの結果であるので、今後も花粉捕集器と計測器における観測結果の蓄積と分析をしていきたい。